

平成 28年度 高松市事務事業評価表 (事中・事後評価)

事務事業名	多核連携型コンパクト・エコシティ推進事業		
部 局 名	市民政策局	課(室)名	まちづくり企画課
		電話番号	087-839-2136

【事業全体概要】まちづくりの目標：道州制時代に中枢拠点性を担えるまち

総合計画	政策	計画的な市街地の形成		主体	市
	施策	適正な土地利用の推進		期間	平成 27年度～平成 27年度
	基本事業	都市計画制度等の的確な運用		総事業費	151,512
重点取組項目	重点取組課題 9		特定財源	国	17,900
関連根拠法令等	都市計画法、建築基準法			県	5,964
事業区分	自治事務	種別	事中・事後	市債	
事業種類	単独			他	40
				一般	127,608

事業の概要
平成 25 年 2 月に策定した多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画に基づき、集約拠点への都市機能の集積と市街地の拡大抑制による、コンパクトで持続可能な都市構造「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現を目指す。

【事業の目的と指標】

対象	高松市民	対象指標名	高松市の人口
手段	制度の周知啓発を図るための説明会のほか、土地利用規制等の在り方や集約拠点への都市機能の誘導策などを検討する有識者会議などを実施して、各種施策・事業を推進する。	活動指標名	説明会等開催回数
意図	市民と行政とが、目指すべき都市構造の考え方を共有し、理解と協力を得ながら、適正な土地利用をはじめ、福祉や環境・経済政策など、総合的な視点から積極的に「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現を目指す。	成果指標名	都市計画区域内人口比率
結果	平成 20 年度に策定した都市計画マスタープランとの整合性を取った、「多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画」に掲げる、コンパクトで持続可能な都市構造「多核連携型コンパクト・エコシティ」を実現し、本市の中核拠点機能の強化に貢献できる。	効率指標名	説明会等開催効率

【指標値および事業費の推移】

指標名	単位	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	目標値	目標年度
対象指標	人	427,195	427,565	427,400	410,000	
活動指標	回	13	13	7	12	
成果指標	%	96.9	97	97	97.1	
効率指標		10.92	11.01	5.7	4.689	
トータルコスト	[千円]	15,385	12,037	44,005		
(事業費)	[千円]	3,801	227	31,722		
(職員人件費)	[千円]	11,584	11,810	12,283		

【環境変化等】

開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
将来のまちづくりについて、人口減少・超高齢社会への対応や、環境への配慮などが求められていた。	人口減少・超高齢社会への対応を始め、環境に配慮した、コンパクトで持続可能なまちづくりが、本市の重要な都市課題となっている。	人口減少・超高齢社会の到来などにより、コンパクトで持続可能な都市構造の実現が必要となる。	具体的な規制内容や誘導方策など、各種施策・事業について、市民の理解と賛同を得る必要がある。

【妥当性評価】

1. 事業の実施主体として市の関与は妥当か B 現段階では市による実施が妥当である 平成25年2月に策定した「多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画」に基づく事業であり、市が実施しなければならない。
2. 事業の上位目標である施策に貢献しているか A 貢献度が大きい コンパクトで持続可能なまちづくりは、本市の重要な都市課題であり、平成25年2月に策定した「多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画」に示された事業であり、上位目標に一致し、貢献している。
3. 成果を上げるため、またコストを削減するため、対象あるいは意図（目指す状態）を拡充・縮小する必要があるか A 必要性はない 高松市コンパクト・エコシティ推進会議から答申を受け、平成25年2月に策定した「多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画」に示されている。
4. 事業を廃止・休止した場合に影響があるか A 影響は大きい 市長マニフェストに掲げられ、議会答弁においても、事業の推進を明言しているため、実施しなければならない。
5. 市民協働の実施状況はどうか（どのような市民参画・市民活動との連携等を実施したか） A 事業のプランづくりの段階からNPO、市民団体が参加している 学識経験者、有識者、市民団体等を委員とした懇談会を設置し、協働・参画できる仕組みとなっている。

【有効性評価】

6. 事業の成果（成果指標値）を向上させる余地はあるか B 向上余地が考えられる（中小程度） 学識経験者、有識者、市民団体等を委員とした懇談会を設置し、各方面からの意見を反映できる仕組みとなっているため、同意見を受けて、向上させられる余地がある。
7. 事業執行上の見直しを行ったか（昨年度何か業務の見直しを行ったか） A 実施済み/実施する必要がなかった 多核連携型コンパクト・エコシティを実現するため、地図情報システムを活用した、各種基礎数値が抽出できるシステム構築に着手した。
8. 成果目標値に対する実績値（達成度）はどうだったか C 概ね達成できた これまで未対応分野であった集約型都市構造への転換に向けて、着実に進捗している。

【効率性評価】

9. 成果を達成するための活動量（活動目標値に対する実績値）はどうだったか D あまり達成できなかった 市政出前ふれあいトークの要望がなく、目標値を達成することができなかった。
10. コスト縮減ができたか C 少し縮減できた 予算の適正な執行に努めた。

【一次評価】

評価区分	継続																							
学校施設整備事業や中心市街地歩行者空間整備事業を完了させ、施策の進捗を図るとともに、人口減少・超高齢社会を見据え、30年後、50年後においても活力を失わず市民がいきいきと暮らせるコンパクトで持続可能なまちづくりを目指し、立地適正化計画策定に向けた調査に着手するなど、集約拠点における居住誘導を更に進めることとしており、事業の継続が妥当である。																								
改革案																								
内容	<p>今まで以上に関係機関との調整を図り、本計画を後押しする、市町村が都市全体の観点から居住機能や福祉・医療・商業等の都市機能の立地、公共交通の充実に関する包括的なマスタープランである「立地適正化計画」の策定に取り組む。</p> <p style="text-align: center;">阻害要因</p>																							
期待効果																								
	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							

【二次評価】

評価区分	継続
多核連携型コンパクト・エコシティの推進を後押しする立地適正化計画の策定に取り組んでおり、集約拠点への居住誘導や都市機能の集積、市街地の拡大抑制による、コンパクトで持続可能なまちづくりの実現のため、事業の継続は妥当である。	